

と教育長への答申

提案Ⅰ 自己実現に向けて健やかに育つ子どもたちの素敵な姿があふれる

まちづくりを進める。

- ①子どもたちが、ふるさと下諏訪の人や物、文化、自然などにふれながら豊かな体験や学びができるまちづくりを進める。
- ②子どもたちが、多様な活動に参加でき、多くの人と交流できるまちづくりを進める。
- ③子どもたちが自分の考えを「創り出す」「発信する」「実践する」ことができ、それを大切にすまちづくりを進める。
- ④子どもたちの素敵な姿を発信し続け、子どもたちのいきいきした顔があふれるまちづくりを進める。

提案Ⅱ 町民みんなで子どもたちの健やかな成長を楽しく支える

まちづくりを進める。

- ①子育て支援活動に関わる人材の発掘と確保を進め、子育て支援活動が自分自身にとっても喜びや生き甲斐と感ぜられる町民を増やすよう努める。
- ②支援者が最低限守りたい「注意点」や活動の際の「心得」などを作成する。また、研修の機会を設ける。
- ③コーディネーターの育成・確保・引き継ぎなどのための研修を計画的・継続的に進める。
- ④子どもにとっても支援活動に携わる人にとっても「安心して、安全に」取り組める制度を整える。

提案Ⅲ 誕生から青年期まで、発達段階に応じた連続性のある子育てのできる

環境のまちづくりを進める。

- ①今まで活用していたものも含め、発達段階に応じた「ガイド資料」や「パンフレット」を整理したり見直したりして、子育て家庭や町民がより利用しやすいものにし、広く活用してもらえよう啓発をする。
- ②子どもを対象にした地区行事やスポーツ行事、各種学習会や講座、様々な体験教室、イベント等の取り組みを、一体的・総合的に活用するため、各組織間の情報の共有や日程調整をする。
- ③既存の活動組織を十分に活用し、組織間の縦横のつながりを深める。そのためにも、必要に応じてそれぞれの組織の役割や目的、活動の見直しを図る。
- ④下諏訪町の地域性を生かした信州型コミュニティスクールを十分に機能させ、下諏訪町の子育て環境づくりの柱の一つとする。

私たちの活動にご協力いただいた皆さんのおかげで、上記3つの提案をすることができました。心より感謝申し上げます。

今後も新たな課題をもち活動を行っていくこととなりますが、その際にはご協力よろしく願っています。



発行 下諏訪町教育委員会
編集 生涯学習
編集委員会

〒393-8501
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40
(下諏訪総合文化センター内)
☎ 0266-27-1111(内線718)
FAX 0266-28-0131
E-mail=syougai@town.
shimosuwa.lg.jp

社会教育委員への諮問

平成26年度 諮問

少子・高齢化社会が進行する中、未来の下諏訪を担う子どもたちの社会的・精神的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を身につけていくための手だてはどうあったらよいか。

—学校間の縦・横連携、及び学校・地域間の周囲連携を通して—

私たち社会教育委員は、平成26年度に教育委員会から諮問をいただき、2年間検討をしてきました。今年3月、教育長へ答申を行いましたので概要を紹介します。

答 申 (以下答申書抜粋)

私たちは上記の諮問を受け、下諏訪町の子育て環境の現状を把握するため、学校関係についてはアンケート調査・意見交換・活動場面の見学、学校地域支援団体との意見交換。地域においては各区の行事の見学・意見交換。また、町が行っている事業の見学・調査等を行いました。

調査を進めていく中で、私たちが行っている検討内容は『下諏訪町子ども・子育て支援事業計画』に示されたものと深く重なりがあるものでありました。そこで答申では、諮問内容の視点から、下諏訪町の子育て事業が地域ぐるみの取り組みとして、着実に歩めるよう気づいた点をまとめ報告させていただきました。

下諏訪町では、様々な場で学社連携や子どもの自立に焦点を当てた、下諏訪らしい健やかな子育てについて検討が進められており、具体的な活動も多様に展開されています。町で育つ子どもたちは、自分の力を精一杯発揮しながら人や物や事と関わり合い、自分の役割や課題にチャレンジし、新しい物を生み出そうと頑張る姿が見られます。また、その姿を温かく見守り、支援する大人の皆さんの姿も見られました。



「準備を進める子どもたち」

自立して生きる力は子どもだけの課題ではなく全ての町民にも求められることだと考えられます。

このようなことから、次の3つの提案をさせていただきました。

(提案3つは右ページへ)

社会教育委員とは

社会教育委員は、社会教育振興のための施策を考え、教育長を通じて教育委員会に提案する仕事をしています。下諏訪町では、教育委員会から出された諮問に応じて会議を開き、時には関連する行事や取組に参加・見学をして協議・検討を進めています。集約した意見は答申書にまとめ、教育長へ提出することで町の教育行政に還元します。

委員構成は、学校教育の関係者、公民館や図書館、体育館、博物館など社会教育施設の関係者、学識経験者、家庭教育の向上に関わる者など幅広い分野から任命されます。このような様々な分野と視点から住民の思いを吸い上げ、行政に反映させる「住民と教育行政をつなぐパイプ役」としての役割を担っています。

未来を生きる子どもたちのために

ノース下諏訪ネットワーク委員会委員長 依田 秀人

下諏訪社中学校、下諏訪北小学校の児童生徒が社会を生き抜く力を持つよう、学校と保護者や地域が連携してサポートするのが、ノース下諏訪ネットワーク委員会の役割です。

具体的な支援を行うために、委員会は3つの部で構成されています。各部ごとの27年度の活動を以下に紹介します。

1. 学校支援部

学習サポートを行った「寺子屋やしろ」の他にも、社中美術部や北小の家庭科授業、クラブ活動、統計グラフ講習会などの指導に、地域の人たちが携わりました。

授業の前に行った「読み聞かせ」は子どもたちのみならず、ボランティアの人たちにも好評でした。一方的な支援ではなく、支援を通して大人も成長する。その相乗効果により学校も地域も活性化する。それが大事だと思います。他にも環境整備として通学路の整備や、緑化支援などを行いました。



寺子屋やしろ



社中読み聞かせ

2. 地域連携部



社中を語る会

対象となる区の区長さんを始め、地域の人たちに集まっていただき地域連携会議を開催しました。社中を語る会や未来の下諏訪教育を語る会では、生徒と住民が意見を交わしました。こうした行事を通して地域に学ぶという意識が強まりました。

3. 広報部

活動を紹介する掲示板を各校に置くことや、対象となる全戸にノース下諏訪ネットワークだよりを配り、活動の宣伝を行いました。

* * *

ここに紹介したのは活動の一部であり、常に学校と連絡を取り合いながら、様々な活動を行っています。

多様化する支援活動をタイムリーに行うためには、多くのボランティアの方の力が必要です。子ども好きで、おせっかいで、お人好みな方々、ぜひ気軽に声を掛けてください。



北小クラブ活動

連絡先 : 下諏訪社中学校 ☎28-7600 下諏訪北小学校 ☎27-2288



コミュニティスクール

なぎがまCS

なぎがまCS運営委員会

広報部長 山田 さやか 明香

絆の深まり

下諏訪中学校区に「なぎがまCS」が発足して、一年が経ちました。この「なぎがまCS」は、下諏訪中・下諏訪南小の子どもたちの豊かな成長を、地域全体で支えていく仕組みです。地域の皆さんと子どもたちが、学校の教育活動や、地域の行事へともに参加することによって、お互いの絆が深まってきたと思います。

同じ思いの共有

地元の祭りの運営に関わった中学生からは「人と人とのつながりの大切さを感じました。支えてくださった地域の皆さんに感謝しています。」「司会を任せていただき、お年寄りや小さな子どもたちが明るく楽しく接してくれて嬉しかったです。」などの感想をもらいました。

地域の皆さんからは「中学生が頑張る姿を頼もしく感じた。」「小中学生は部活や塾で忙しいと思っていたが、なかなかやるね。」などの声をたくさん寄せていただきました。地域の皆さんの温かい見守りの中で、子どもたちに郷土を大切にする思いが育まれています。



「社会見学での子どもたちの見守り」



「しめ縄作りの学習」



「各地区の祭りで活躍する小中学生」



「総合的な学習で雅楽にふれる」

子どもたちの豊かな成長

今後は、あいさつ運動の広がりや子どもたちの防災への意識が高まるような働きかけもできればと考えています。また、「なぎがまCS」がもっと周知されるように、学校やPTAからの発信とともに、「なぎがまCSだより」を発行して（年3回程度）、地域の皆さんに活動を紹介していきたいと思っています。

学校と保護者と地域の連携による「なぎがまCS」の取り組みを通して、子どもたちが豊かに成長するように、皆さんの一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

皆さんの地区で子どもたちを対象にした行事などがございましたら、なぎがまCS運営委員会広報部まで情報をお寄せください。

情報連絡先 下諏訪中学校 ☎27-3000 下諏訪南小学校 ☎27-5000

：「県入選」作品二点を紹介します：

社会を明るくする思いやり

下諏訪北小学校三年

刈部

柘太朗
しゅうたろう



ぼくは、社会を明るくするた
めには、相手を思いやる気持ち
と、人と人とのつながりが大切
だと思います。

東北大しん災では、家がなが
されたり、たく山の人たちがな
くなりました。体育館などにひ
なんしている人たちのために、
地いきの人や、全国からボラン
ティアの人たちが、食事をつく
ったり、ながれてきたごみや、
がれきなどのかたづけを手伝っ
たり、行方不明の人のそうさく
をしているところなどを、その

時は、ぼくは保育園生でわか
らなかつたが、小学生になりニ
ュースで見たり聞いて知りました。
また、ひなんしている人同士で
たすけ合っているところも見ま
した。

おんたけ山ふん火では、ちょ
う上にいた男の人が、近くに
いた女の子に、自分のジャンパー
をかけてあげたとニュースで見
ました。

自分の命もあぶないのに、人
を思いやれるその男の人の行動
は、すごいと思いました。

海でおぼれている子どもを、
近くにいた人がたすけにいつて
なくなつたというニュースも見
ました。

ぼくは、そのじょうきように
なつた時に、同じ事ができるの
か、こまつている人たちの力に
なりたいたいという気持ちはあるが
、どうしようか、今の
自分のできる事は何かと考えて
います。

おじいちゃんとおばあちゃん
が、ぼくに話してくれた事があ
ります。

「自分がした事は、いつか自
分にかえってくる。こまつてい
る人がいたら、力になれば、自
分がこまつている時にその人が
たすけてくれる。人はみんな
たすけあつていきっている」。

ぼくは、そのことばを聞いて、
人はみんなたすけあつていて、
ぼくもたく山の人たちにささえ
られて、毎日安心して楽しく生
活できているんだと思いました。
人がよろこんで、え顔でいてく
れることはうれしいです。

ぼくは、まわりの人たちや、
友だちを思いやれる人になれる

ようにがんばりたいです。
まずは、ぼくはまわりの人た
ちや、お友だちに気をくばりた
いです。

そういう相手を思いやる気持
ちがたく山の人たちに広がって
いけば、安心して楽しくくらす
る社会になっていくと思います。
ぼくは、はんざいや事けん
ない社会になってほしいとねが
っています。(現在は四年生)



小さな気づかいが

社会を明るくする



下諏訪社中二年 手塚 悠里ゆうり

みなさんは、社会を明るくする運動とはどのように考えますか。私は、「気づかい」「思いやりの心」が大切だと考えます。ある日、職場体験学習で病院に体験に行ったときのことです。私よりも先にエレベーターに入ってしまった看護師さんが、私が入るのを待って、ボタンを押してドアが閉まらないようにしてくれていました。私が急いで中に入ると「何階に行きますか？」と声をかけてくれました。そして、降りるときも、患者さんや私たち他人を優先し、自分是最後に出ていきました。その時、患者さんは看護師さんに「あり

がどうぞございます」と言いました。すると、看護師さんは「いえいえ」と優しく、笑顔で返していました。私はそんな様子を見て、心が温かくなったし、そんな小さなことだけれど、看護師さんの思いやりの心や、患者さんの心が明るくなった気がしました。きっと、看護師さんも早く出たいと思っていたと思うのに、他人を優先してくれました。

このような体験をした人はたくさんいると思います。実際、思い返してみると、何気なくしていることでも、それはすごいことなんだということが分かります。まさに、みんなのヒーローです。

私は、この出来事から学んだことがありました。

それは、小さな気づかいの大切さです。何気ない行動だけれど、そんな気づかいをするか、しないかでは、全然違ってきます。エレベーターに乗ろうとしている人がいるのに、すぐにボタンを押して、閉めてしまう人がいます。そんなことをする自分自身は、何とも思わないでしょうが、乗ろうとしていた人にとっては、不快に思ってしまったと思います。それを、少しでも周りを見て、気づいてあげることでできれば、お互いにいい気持ちになると思います。

考えてみれば、エレベーター内だけでなくどこに行っても気づかいは大切です。電車やバスでは、高齢者や妊婦さん、幼児のために席をゆずってあげる人がいます。これも、思いやりの心があるからこそできることだと思います。

清掃もそうです。よく、「来たときよりも美しく」と言われます。これは、次に使用する人が気持ちよく使えるようにするためです。やはりこれも、ちょっとした気づかいがあるのだと思います。

エレベーター内の出来事があったから、私もちょっとした気づかいは少しずつですが、あたりまえにできるようになってきました。大切だと思うこと、それは人のために行動することだと思います。そして、その行動が多くの人々の心を温かくし、そういう心を持った人が広がっていく、社会を明るくしていくのだと思います。

また、そんな思いやりの心に気づき、感謝の気持ちを伝えることです。患者さんは、看護師さんの気づかいに気づき、「ありがとうございます」と言いました。そうすることでお互いにいい気持ちになり、心が温かくなると思います。

どちらも、ほんの小さな気づかいです。ですが、そういった行動によって人々の心を温かくし、今の社会がより明るくなっていくのだと思います。

だから、そんな「心」を一人一人がもっていけば、地域、そして世界中に笑顔の花、ありがたうの花が咲き、世界中の人々の力でその花が満開になると思っています。
(現在は三年生)

未就園児・在園児等母親の少人数グループによる子育て勉強会

だっこの会

参加しませんか？

委員長 伊東 裕美

顧問 石黒 麻衣子

◎だっこの会って？

だっこの会は、1994（平成6）年に発足しました。下諏訪町在住の「未就園児と保護者」「子どもが保育園・幼稚園に在園している保護者」を対象に、保護者の自主性を大切にしながら、手軽に開き、身軽に集まり、気軽に話し合えることを目的にした、子育てのための勉強会です。

勉強会といっても、現在のだっこの会の勉強は、親が同年代の子ども同士のかかわりを身近に感じ、時には親同士が悩みを相談し合うなど、保護者・子どもが自然に学び合うことです。その中で、親子がふれあい、子どもの社会性を育み、お友達を増やすことができます。

内容こそ時代に応じて変わってきたものの、この会の活動が長期にわたって続いてきたわけは、多くの方々のご賛同とご協力があったこと、何よりも幼い子を持つ家庭にとって、大切な活動であったことと、思っています。子育てを一人で抱えず、「だっこの会」で一緒に学んでみませんか。



平成27年度3園合同「なつまつり」の様子

◎だっこの会の活動

●全体活動（月に約1回）

各保育園の世話人を中心に季節の活動を行います。

〈平成27年度の例〉

スイカ割り、焼きいも会、ハロウィンパーティー、豚汁会、ミニ運動会、クリスマス会、いちご狩り、親子ダンス&ヨガ、園児の歌の鑑賞など

●グループ活動（随時）

各グループリーダーを中心に、少人数活動を行います。

和気あいあいとした雰囲気が魅力です。地域別や年齢別にグループ分けされていて、お友達もつくりやすいです。

〈平成27年度の例〉

パン作り体験、消防署見学、いちご狩り、水遊びなど

●3園合同だっこの会（年1回）

だっこの会推進委員会を中心に、3園合同で行います。

3園のだっこの会が交流できる場です。

お問い合わせ先

さくら保育園…………… 27-8764

とがわ保育園…………… 27-3315

みずべ保育園…………… 27-8781

教育こども課 子育て支援係 27-1111

(内線716)

随時会員募集中

・会費無料（実費負担有り）

・見学からの入会も可能です

※各園の世話人を紹介します。

お気軽にお問い合わせください。



町立図書館のおすすめ本コーナー



「石川啄木」 ドナルド・キーン 著 新潮社

評伝の著者は啄木のことを「友達になれない…」と感じつつ筆を進めているが、確かに数々の奇行には辟易^{へきえき}させられる。しかし一生に二度と帰ってこない一秒を鋭く切り取って言葉に残す密度の濃さには圧倒される。

有名な「一握の砂」を併読しながら、本文中の代表的な歌の英訳を声に出すと、いつの間にかお互いの魂が重なりあっていくのを感じる。

わかれ来て ふと瞬けば ゆくりなく
つめたきものの 頬をつたへり

*註 ゆくりなく= 突然に (書評ボランティア 植松 昌弘)



紹介した本は図書館で借りられます。お電話でも予約が可能です。☎27-5555

教育委員会からのお知らせ

町民大学 — 下諏訪を学ぶ① —

演 題：「江戸時代の暮らしと文化 ～衣・食・住を中心に～」

講 師：宮坂 徹 諏訪湖博物館・赤彦記念館 元館長

日 時：6月26日(日) 午後1時30分～午後3時00分

会 場：文化センター 集会室 ※当日受付可(受講料100円)



江戸という時代は、その期間が260年余という長期安定の時代で、様々な点で現代の私たちの暮らしの原点といえる時代です。

生活様式やものの見方、考え方も欧米化している現代ですが、江戸という時代の文化を覗きながら、「日本的」な私たちって何だろうを検証してみたいと思います。(講師コメント)

お問い合わせ ☎28-0002 (生涯学習係)

六月のこゑ

諏訪地方では大社の御柱祭が多く、思い出をつくりながら盛大のうちに終わり、小宮や地域の御柱祭へと移ってきております。

一方、国では大きな選挙改革が迫っております。今月十九日の公職選挙法の改正で、選挙権は二十歳以上から十八歳以上に引き下げられます。そして、改正後の初めての選挙は七月の参議院選挙になりそうです。

町では中学生・高校生が未来議会において自分の思いを行政にぶつけ、いくつかの提案が行政に反映されております。

少子高齢化・人口減少・経済の低迷・世界的な貧困の拡大など私たちが取り巻く社会環境は厳しさを増しております。これから生きる若者は、日本の将来や未来の自分にどのような思いを描くのでしょうか。

投票率が低くなっている昨今ですが、選挙法が大きく改正されるこの機会に、新しく選挙権を持つ若者はもちろん、全国民が「選挙とは何か」を考え、自分の意見を選挙の場で反映したいものです。

(久保田利広)

